



台湾研修特集

8月5日(月)～8日(木)の3泊4日の行程で、2年生24名が台湾へ海外研修に行きました。

～台湾科学教育館～

1日目は飛行機で台湾へ移動し、はじめに台湾科学教育館を訪れました。ここで、「身近な科学現象」をテーマに研修を受けました。サイエンス専門ガイドの先生の英語による説明を、生徒たちは今までに学んだ知識と関連づけながら理解を深めることができました。



～国立武陵高級中学～

2日目と3日目は、台湾有数の進学校である国立武陵高級中学を訪れました。歓迎式典では、両校の学校長、生徒代表の挨拶から始まり、生徒たちがお互いの学校を紹介したり、パフォーマンスを披露したりして交流しました。



その後、「醤油とアミノ酸」をテーマに化学協働実験を行いました。総合自然科学コースの課題研究で研究している龍野の醤油を題材にして、台湾の醤油との違いについて考察しました。また、「運動の第二法則」(物理)や「淡水プランクトン」(生物)の実験を、生徒たちは英語でコミュニケーションを取りながら行うことができました。夜、本校の生徒たちは武陵高級中学の生徒宅でホームステイをしました。



～国立中央大学～

3日目の午後は、科学分野で台湾随一の研究内容と設備を有する国立中央大学において、武陵高級中学の生徒たちと共に最先端の科学技術を学びました。リモートセンシング技術や天文学、物理学に関する講義を英語で受けました。



～故宮博物院～

4日目は、故宮博物院へ向かい、「古代の科学技術」をテーマに研修を受けました。中国と台湾の古代の遺産に含まれる金属や鉱物、科学技術の変遷について学びました。その後無事帰国し、バスで学校に戻り解散しました。

～生徒感想①(抜粋)～

なかでも一番学ぶことが多かったのは、武陵高級中学の学生との交流・協働実験です。彼らの英会話の能力は私たちより一枚も二枚も上手で、はじめは彼らと会話することに及び腰になってしまっただけでなかなか話しかけられずにいましたが、時間が経つにつれ、徐々にコミュニケーションを取れるようになっていきました。協働実験では、「単語が難しくて君の書いている考察がよくわからないから説明してくれ」と言われて、はじめ口で説明しようと試みても無理だったので、紙に図を書きながら説明したところ、相手の理解力も助けて、どうにか自分の言いたいことが伝わりました。そこから「自分もある程度台湾の学生とコミュニケーションをとれるだけのツールは持っているんだ」という実感が生まれ、それをきっかけに次につなげていくことができたと思います。

～生徒感想②(抜粋)～

台湾研修を通して、様々なことを学びました。武陵高級中学校で実験を行ったときに、私の班にいた生徒が自分達で考えた方法で計算していました。それを見て、先生の教えた方法だけでなく、色々な方法を試すことも大切だと思いました。また、醤油の中和滴定を行ったときに、生徒達が前にでて考察を発表してくれました。私達はあらかじめ考察も先生から教えてもらっていましたが、台湾の生徒は自分達で考え、発表していて凄いなと思いました。自分達で考え、行動することは新たな発見につながるのだから、私達はこれからもっと積極的になるべきだと思います。日本人は外国人に比べると、積極的に物事を行ったり、自分の意見をはっきり述べるのが苦手な所があるので、交流を通して違いを実感出来て本当に良かったです。